



校内研便り

昭和小
NO 3
R2. 6. 15
研究主任

今年度の研究テーマ

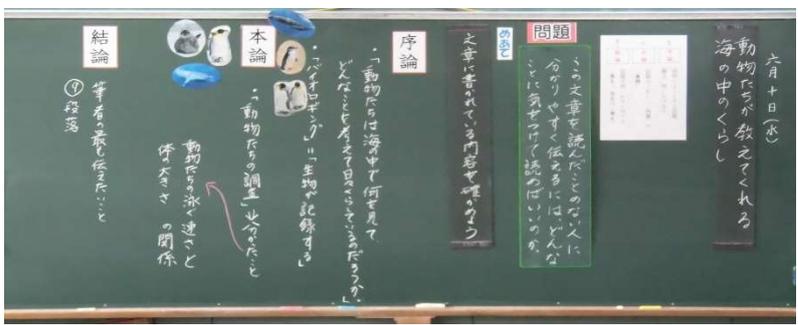
自ら進んで考え、ともに学び、表現し合う子どもの育成
～みんなで学び合い、表現力の向上を図る国語科の授業づくり～



今回は、中部教育事務所から渡邊 智穂指導主事に来て頂いて今年度初の全校研となる研究授業（第5学年「動物たちが教えてくれる海の中の暮らし」）が行われました。

単元名 筆者の伝えたいことをまとめよう
教材名 動物たちが教えてくれる海の中の暮らし
研究授業 5年
重点指導事項：文章全体の構成を捉えて要旨を把握し、まとめることができる。

<授業者より>成果◎と課題●
◎授業づくりに対して多種多様な課題がわかったのが成果。
●一部の児童のみとの一問一答式の流れになった。
●全員が発言できるような発問を考えておかなければならなかった。



◎研究協議より
・発問が多すぎたので、大事な発問は板書に。
・児童の考えが板書にほしい。
・説明文なので文章提示が必要ではないか。図や表の活用があれば良かった。

研究協議後は、渡辺智穂指導主事より『見方・考え方を働かせる授業づくり』について講話をしていただきました。

指導要領の改訂の方向性や見方・考え方を働かせる授業づくりのポイントをわかりやすく教えていただきました。その中で、『まとめ』のところで示して下さっていた3点を本校の授業の中でも実践していけたらと思います。

◎これから学校全体として取組む具体的内容NO2

(NO1は「書く」場の設定、ノートに自分の考えを残す、ふりかえりを書くです。)

①単元計画の提示

* 1 単位時間の学習内容とその時間の学びを書き込み、次時の導入で活用する。

②言語活動のモデルの作成

* 実際に教師がモデルとなるものを事前に作成し、単元のゴールイメージをもたせる。

③学習用語の統一→言葉の力の定着

* 学習用語をカード化し、全校で統一されたものを使用する。⇒学習の系統化

1 単位時間ごとに目標を達成した子どもの具体的な姿を明確にもっておく。



この取り組みに向けて、どの用紙の大きさに単元計画をどのように表すかや、学習用語の作成をどの文字数で誰がいつ作成するかなどのさらに具体的な方法を後日提案します。②は、先生方が各自で作成をお願いします。



研究授業や校内研修が進むにつれ、国語科の研究の方向性が少しずつ見えてきました。やるべきことがわかったら、やらなくてはいけないことが出来てはきますが、みんなで力を出し合い進めていけたらと思いますのでよろしく願います。